

令和4年度

岐阜女子大学・大学院外部評価委員会報告書

令和5年3月

岐阜女子大学・大学院

目 次

1. 外部評価委員名簿	1
2. 外部評価委員会次第	2
3. 外部評価委員会報告内容	3
(1) 本学の教育課程について	5
(2) 文化創造学部の改編について	10
4. 外部評価委員会議事要録	16
5. 3 ポリシー（令和4年度）	25

1. 外部評価委員名簿

岐阜女子大学・大学院 外部評価委員会

委員所属・職名	委員氏名 (50音順・敬称略)
静岡県立静岡高等学校 校長	小関 雅司
清水建設株式会社名古屋支店 副支店長	白石 淳
一般財団法人国土技術研究センター 理事長	徳山 日出男
岐阜市教育委員会 教育長	水川 和彦

2. 外部評価委員会次第

日 時：令和5年2月4日（土）

13：30～15：00

場 所：岐阜グランドホテル

岐阜県岐阜市長良 648 番地

Tel：058-233-1111(代表)

[次第1] あいさつ 13：30～13：40
(松川禮子 学長・杉山博文 理事長)

[次第2] 本学の教育課程について 13：40～13：55
(富士霸王 学生部長)

[次第3] 文化創造学部の改編について 13：55～14：15
(横山隆光 文化創造学部長)

評価委員講評 14：15～15：00

司会：学長補佐（谷里佐・笠井恵里）

3. 外部評価委員会報告内容

(1) 本学の教育課程について

学生部長 富士 霸王

本学の教育課程・学修に関する諸活動は、平成 21 年度（2009 年度）に採択された文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」「学生支援プログラム」『社会ニーズに対応した学士力と高い就職率・定着率を目指す教育』（平成 21 年度～平成 23 年度）の活動をベースに毎年見直しと改善を加えながら、本年まで 10 余年にわたり活動を継続してきました。

この活動の重要なポイントは 3 点あります。①入学前学習支援の充実（高等学校と本学とのスムーズな接続）、②大学全体でのコア・カリキュラムを中心にした教育・学修の充実、③就職支援活動の充実（社会へのソフトランディング）、の 3 点です。特に②の項目は、重要な取り組みで、各学科・専攻・専修でコア・カリキュラムを設定し、初年次教育、専門基礎教育、専門教育、キャリア教育という総合的な教育体制を組み、取り組んでいます。

諸活動の節目、節目では本学の教員が、本学の学生を念頭に作成した各種テキスト「入学前学習課題テキスト」、「初年次用テキスト（5 教科）」、「専門基礎テキスト」、「資格取得ガイドブック」、「資格取得のための手引書」を活用しています。活用を確実にものにするため『基礎力のための年間履修計画表』（長期休暇中の学修時間の確保を目的に作成したもの）に組み込み、長期休暇明けには確認テストを実施して、有効な活用を推進しています。

（テキスト類の改定は概ね 3 年を目途に行い、内容の充実も図っています。）

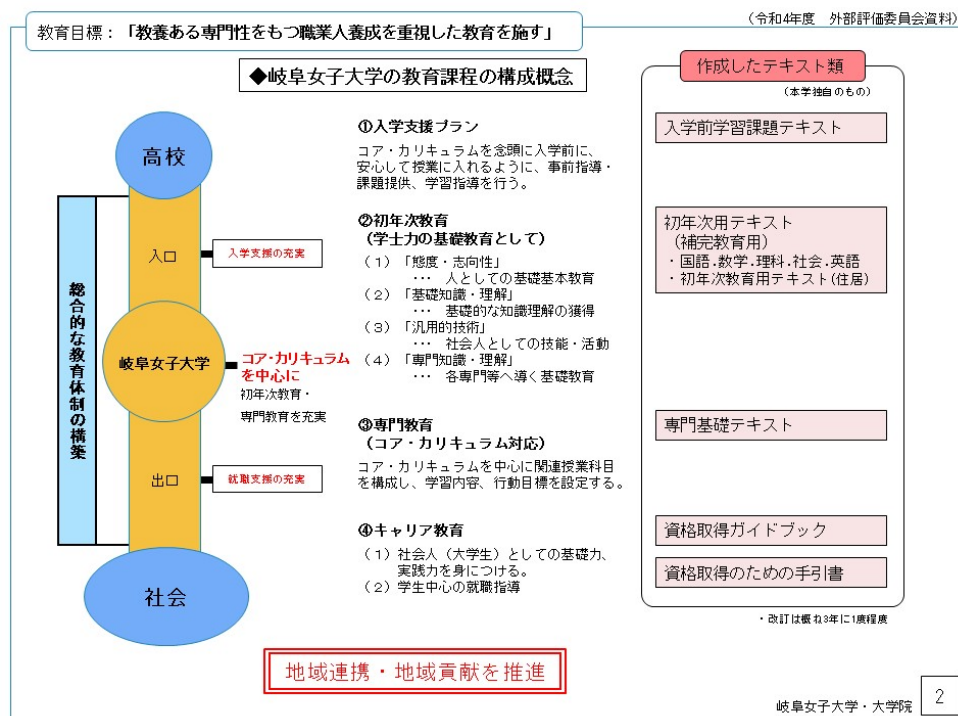


図 教育課程の構成概念図

1. 令和4年度の活動概要

・テキスト類の改定について

本年度のテキスト類の改定は、健康栄養学科で「専門基礎テキスト」、生活科学専攻で、新規に「家庭科教員採用試験のための面接対策講座」、住居学専攻で「専門基礎テキスト」、初等教育学専攻で「専門基礎テキスト（生徒指導論）」、デジタルアーカイブ専攻で「初年次教育テキスト」、「専門基礎テキスト」の計6冊の改定を行い、活用を始めています。

・3つのポリシーについて

前回（2021年度）の大幅な改定・見直しを受け、各学科・専攻・専修ともポリシーに沿った活動を続けています。今年度は、初等教育学専攻のカリキュラム・ポリシーで、「課題を見出し〜」を、「ICT活用指導力を併せ持ち〜」のように具体的な文言を入れ改定しています。

・授業改善に関わる学生アンケートについて

前年に倣い、後学期（12月第一週を目途）に実施しました。アンケート回収後、担当教員が結果を分析、報告書にまとめ、本学のグループウェア（サイボウズ）上で公開しています。他の教員の授業に於ける工夫・アイデアなどを参考にして、自らの授業改善に繋げてもらうことを期待しています。

・地域連携・地域貢献活動について

地域との連携・地域への貢献は、本学がこの地域に存在するうえで、大変重要な事であり、「大学としての：使命」でもあること、又「日頃の学びを実践できる場」でもあることを理解して今年度も多くの活動に積極的に取り組みました。（詳細は、本学HPに掲載）これからも地域との繋がりを大切に、継続的な取り組みを続けていきます。

・就職支援・資格取得支援について

各学科・専攻・専修では、就職支援・資格取得のための支援講座を、1年生から卒業まで切れ目なく行っています。特に、資格取得については、「複数の資格取得者」が求められる傾向がみられる昨今の状況があり、効率の良い支援体制が必要になってきています。

・大学機関別認証評価受審結果（令和4年3月16日付）について

令和元年度から組織を立ち上げ取り組み・活動を進め、昨年度末（令和4年3月16日付）判定結果が出ましたが、昨年度の外部評価委員会では報告できませんでした。その内容等と重要な点について、次に、概略を報告します。

2. 第3回 大学機関別認証評価

今回が、第3回目【初回：平成19年（2007年）、第2回：平成27年（2015年）】の受審となる大学機関別認証評価は、令和元年（2019年）に学内組織を立ち上げスタートしました。主なスケジュールとしては、機構への受審申し込みを令和2年7月、自己点検評価書と各エビデンスは令和3年（2021年）6月に提出しました。書面調査の後、オンラインによる実地調査が、同年11月16日、17日の両日に渡り実施されました。その後、同年12月に、評価チームによる「評価書案」が出され、令和4年（2023年）2月に「評価報告書案」が示され、同年3月16日付で評価結果『認定証』を受領しました。報告書の判定文としては、『評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する』となっています。

「改善を要する点」は、基準2、基準4、基準6、に各1項目、3項目の指摘がありました。「改善を要する点」については、評価の翌年から3年以内に改善報告書の提出・公表が求められています。（基準4、6の項目については対応済、基準2の～～収容定員充足率が0.7倍未満のため、定員確保に向けた改善が必要である。については現在、鋭意検討中）

また、優れた点として、基準3教育課程で、①大学独自の各種テキスト類の作成・活用、②基礎力のための年間履修計画表の策定の2点が挙げられています。また、本学の認証評価を担当された機構の評価チームは、五十嵐勝団長（西南女学院大学）他4名でした。

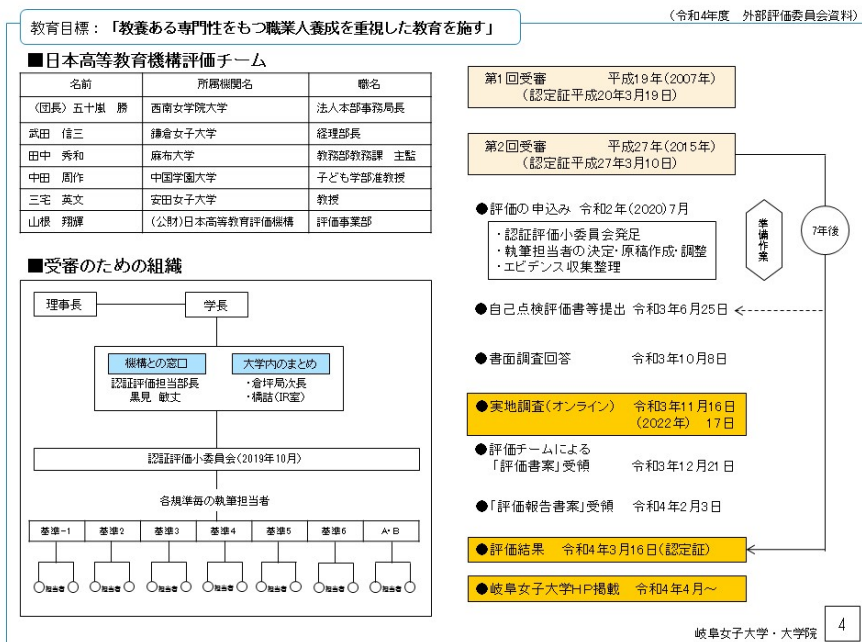


図 受審の流れ 組織

3. 沖縄本土復帰 50 周年記念講演・シンポジウム

沖縄本土復帰 50 周年記念講演・シンポジウム『教育のあの時・いま・これから』～木田宏教育資料から展望する～は、岐阜女子大学・沖縄女子短期大学姉妹校提携記念事業として、11月6日（日）に、沖縄県立博物館・美術館をメイン会場に、沖縄女子短期大学を沖縄会場、岐阜女子大学を岐阜会場として、オンライン配信も行いました。当日の参加者は、合計 426 名でした。当日は、基調講演、特別講演、シンポジウムの 3 本立て構成で実施しました。

(令和4年度 外部評価委員会資料)

教育目標：「**教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す**」

岐阜女子大学・沖縄女子短期大学姉妹校提携記念事業

沖縄本土復帰50周年記念講演・シンポジウム
教育のあの時・いま・これから
～木田宏教育資料から展望する～


日時 2022年
11月6日（日） 13:00-16:15

会場 沖縄会場：沖縄県立博物館・美術館
岐阜会場：岐阜女子大学（沖縄女子短期大学）
オンライン

I. 基調講演
これからの教育～何を守り、何を变えるか～
浅田 和伸 氏（前国立教育政策研究所所長）

II. 特別講演
木田宏教育資料とオーラルヒストリーからみた
日本の戦後教育改革と今後の教育
後藤 忠彦 氏（前岐阜女子大学学長、現同大学顧問）
・今後の教育に向けての実践紹介

III. シンポジウム
復帰50年、沖縄の教育とこれから



木田 宏 先生 (1922-2005)

木田宏オーラルヒストリーおよび教育資料

木田宏先生は、戦後の教育改革の評価、後世の教育に役立てばとの思いで、岐阜女子大学に、教育資料やオーラルヒストリーを寄贈されました。木田宏先生は、カリキュラム、教育資料（教育リソースDA）、遠隔教育などにも関心があり、岐阜女子大学の実践に対し、問題点の指摘・支援をして下さいました。

当日の参加者数

①メイン会場（沖縄県立博物館・美術館） 40名
②沖縄会場（沖縄女子短期大学） 128名
③岐阜会場（岐阜女子大学） 96名
④ウェルビナー 182名（申込111名、岐阜会場51名）

計 426名

岐阜女子大学・大学院 8

図 教育のあの時・いま・これから①

・木田宏氏および、木田宏教育資料とオーラルヒストリーについて

木田宏氏は、戦後文部省（現文部科学省）に入省、文部官僚として戦後の教科書制度、昭和 30 年頃の教育委員会制度の改革など、20 世紀の教育改革の大きな激動期に関わってこられました。また、教科書や学習指導要領の作成等 教育の歴史上、多くの功績を残されました。また、本学顧問の後藤忠彦前学長（現顧問）とは、大変親交が深く、木田先生から教育資料を本学に寄贈していただき、オーラルヒストリーの記録も行っています。これらは、本学附属図書館で『木田文庫』として保存・活用を図っています。

・講演・シンポジウムの内容について

I、基調講演：浅田 和伸氏（前国立教育政策研究所 所長）

テーマ 『これからの教育』 ～何を守り、何を変えるか～

II、特別講演：後藤 忠彦氏（岐阜女子大学前学長、現顧問）

木田宏教育資料とオーラルヒストリーからみた『日本の戦後教育改革と今後の教育』

「今後の教育に向けての実践紹介」

- ① ドローンのデジタルアーカイブ、教育、住居、観光等での利活用
- ② 沖縄・岐阜での遠隔協働学習の実践と課題
- ③ 教育、観光、デジタルアーカイブ分野での DX 推進と課題

III、シンポジウム 『復帰 50 年、沖縄の教育とこれから』

- ① 沖縄の小学校教育 50 年とこれから
- ② 沖縄の幼稚園教育 50 年とこれから
- ③ 大学間連携から見た沖縄の教育とこれから

・コーディネーター：平田 美紀氏（沖縄女子短期大学学長）

・パネリスト：松川 禮子氏（岐阜女子大学学長） 大石 英助氏（沖縄女子短期大学講師）
名渡山 よし乃氏（沖縄女子短期大学講師）

（令和4年度 外部評価委員会資料）

教育目標：「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」

◆講演の内容

教育のあの時・いま・これから
～木田宏教育資料から展望する～

I .基調講演
・これからの教育
～何を守り、何を変えるか～
13：00～13：55

・浅田 和伸 氏
大学で心理学を専攻。1985年に文部省へ入省。三重県教育委員会指導課長、内閣審議官（教育紛争委員会担当室長）、文部科学省審議官、総合教育政策局長。2021年1月から国立教育政策研究所所長（2022年8月迄）。



II .特別講演
木田宏教育資料と
オーラルヒストリーからみた
日本の戦後教育改革と
今後の教育
14：05～14：55
（今後の教育に向けての実践紹介）

①ドローンのデジタルアーカイブ、
教育、住居、観光等での利活用
②沖縄・岐阜での遠隔協働学習の
実践と課題
③教育、観光、デジタルアーカイブ分野
でのDX推進と課題



後藤 忠彦 氏

III .シンポジウム
復帰50年、
沖縄の教育とこれから
14：55～16：10

①沖縄の小学校教育50年とこれから
②沖縄の幼稚園教育50年とこれから
③大学間連携から見た沖縄の教育と
これから



平田 美紀 氏
（沖縄女子短期大学学長）



松川 禮子 氏
（岐阜女子大学学長）



大石 英助 氏
（沖縄女子短期大学講師）



名渡山 よし乃 氏
（沖縄女子短期大学講師）

岐阜女子大学・大学院 9

図 教育のあの時・いま・これから②

(1) 各専攻の取り組み

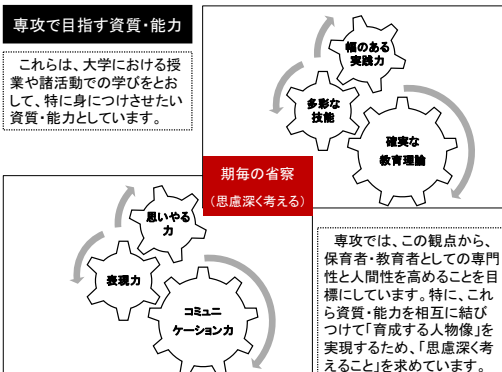
初等教育学専攻では、育成する人物像として、①幼児期から児童期にかけての教育の実践的な力、②教育への情熱と教育者としての優れた人間性・社会性、③自己向上に励み、教育・保育をとおして社会に貢献できる力を身につけた教育者を育成します。そのために、「理論と実践の往還」を具現化する学びを大切に、入学前学習支援と大学4年間のカリキュラムと特色ある活動を計画的に配置しています。

課題は、理論と実践の往還によるスパイラルな知識・技能の修得を節目で確認し、自分の立ち位置の自覚化が十分でないことと、長期課題等日々の学びによる「修学すること」の意識への弱さがある

ことと捉えています。そこで、学生自ら自覚して、的確な省察ができる力を身につけさせていくことと、授業と活動との相関から観る力を付

育成する人物像

初等教育学専攻では、次を身につけた教育者を育成します。
(1) 幼児期から児童期にかけての教育の実践的な力
(2) 教育への情熱と教育者としての優れた人間性・社会性
(3) 自己向上に励み、教育・保育をとおして社会に貢献できる力

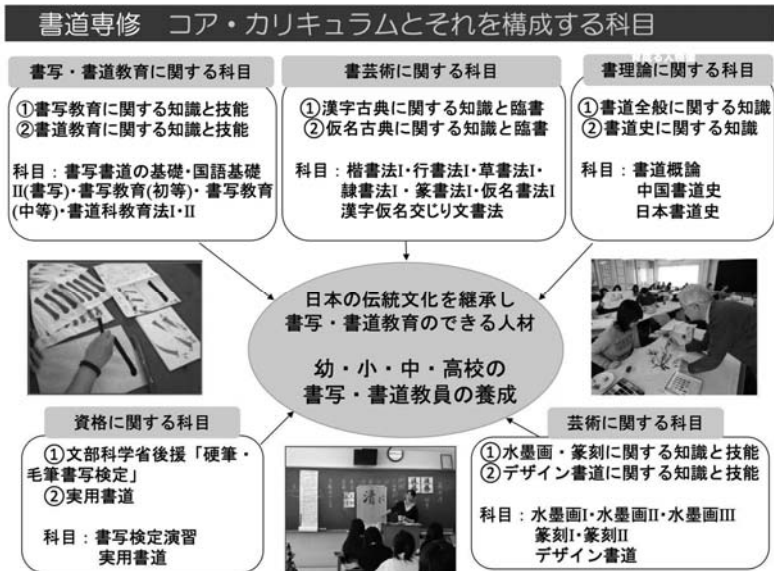


課題及び今後の計画	課題	今後の方向性
<p>【求められる教師像】</p> <p>「令和の日本型学校教育」すべての子供たちの可能性を引き出していく教育 『個別最適な学び』『協働的な学び』の一体化</p> <p>+</p> <p>【本専攻育てたい人材像】</p> <p>1 専門職としての知識・技能 2 教職への責任感・探求力 3 総合的な人間力</p>	<p>教職の基礎学力の向上 自分の得意を磨く修学 協働力に集積していく体験活動・授業力</p> <p>理論 ← 往還 → 実践</p> <p>入学時に4年間の往還による学びの精想を理解。年次ごとに深まりを確認し、育成する人材へと成長。</p> <p>岐阜校課題</p> <p>理論と実践の往還によるスパイラルな知識・技能の修得を節目で確認し、自分の立ち位置の自覚化が十分でないこと。長期課題等日々の学びによる「修学すること」の意識への弱さがあること。</p> <p>沖繩校課題</p> <p>保育・教職に就いている学生のもつ現場からの教育実態が、授業で効果的に活用されていくことで、学ぶ意欲と学修成果につないでいくことに弱さがあること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生自ら自覚して、的確な省察ができる力を身につけさせていく。 ・授業と活動との相関から観る力。自身が目指すべき方向とそれに必要な力への自覚を図る。 ・職場からの実態に基づく、学生同士・学生と教員とが対話的であり、深まりある授業を行う。 ・正規教員としての就職のために、岐阜校で行っている就職対策講座を配信し、添削と指導を行う。
ご意見をいただきたいこと	学校の現状に立ち向かう人材として、求め、養い続けたい資質・能力について、考えておられることをお聞きしたいです。	

け、自身が目指すべき方向とそれに必要な力への自覚を図ることに力を入れています。

書道専修では、日本の伝統文化を継承し、書写指導のできる幼・小・中学校教員および書道全般に精通した高校書道教員・書道指導者をめざし、基礎・基本を大切に、幅広い知識と高度な実力を兼ね備えて、日本独特の文化である書写・書道を、幼・小・中・高生に教育できる力を持ち、社会に貢献できる人材を育成します。コア・カリキュラムとそれを構成する科目を設定し、

4年間で計画的に育成します。そして、特色ある活動として、書道パフォーマンスやデザイン書道動画撮影などを取り入れています。今年度は「全国高校・大学生書道展」で大賞を1名が受賞し、「毎日



書道専修 特色ある活動・研究活動・研究の社会還元①



新入生歓迎書道パフォーマンス



姉妹校中国美術学院からの招聘教授による授業



「デザイン書道」動画撮影



杭州市・岐阜市「不戦の誓」
碑文交換60周年記念
書道パフォーマンス



宇治研修旅行
「宇治橋断碑」鑑賞



日展入選2人による
「信長祭」垂れ幕揮毫

書道展」では13名・「読売書法展」では21名が入選を果たしました。また「第9回日展」(令和4年)では2名の初入選者を輩出しました。書道専修は、信長「ちょ待てよ!」の垂れ幕で話題になっており、これを発展させてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進していきます。

観光専修では、育成する人物像として、①女性らしいホスピタリティを身につけた人格形成、②英語に関する高度な専門性とコミュニケーション能力を身につけた教員、③在留外国人の雇用に必要な専門知識を身につけ、幅広い分野で活躍できる人材を育成します。本学は、下呂市と包括連携協定を結んでおり、観光を中心にデータサイエンスを含むDXの研究を進めています。また、観光と共に公務員を目指す学生のための学びの道筋を明確にして、学生を育成します。

特色ある活動・研究活動・研究の社会還元として、長良川鉄道(株)との共同企画として、ビアホール「ながら」・「ながらバー」&郡上八幡駅前おどりを継続して進めています。メタバースに下呂市の街並みを造るとともに、現地学習で先進的に推進する下呂市の観光DXを学んでいます。

特色ある活動・研究活動・研究の社会還元

<長良川鉄道(株)との共同企画>

ビアホール「ながら」・「ながらバー」&郡上八幡駅前おどり(R1年度～)

現状・課題

沿線周辺地域の人口減少、マイカーの普及、車両の老朽化により、長良川鉄道の利用客の減少
観光鉄道としての生き残りをかけて、地域の魅力を発信できるツールとしての活用

目的

未来へ残し、5年先や10年先も人々に愛される列車へ

企画提案(平成30年3月18日)



地域住民との交流(郡上シバザクラ植栽イベント)



<地域文化資源をまなぶ>

うかいミュージアム、長良川輪創(R4年7月14日)



<旅館・ホテル実習>

客室チェック



お客さまのお出迎え



イベント企画準備(R1年度前期)



イベント当日(R1年8月8日)



特色ある活動・研究活動
研究の社会還元

<日本文化を伝える>

国際文化交流体験(R4年7月17日)



立ち居振る舞い



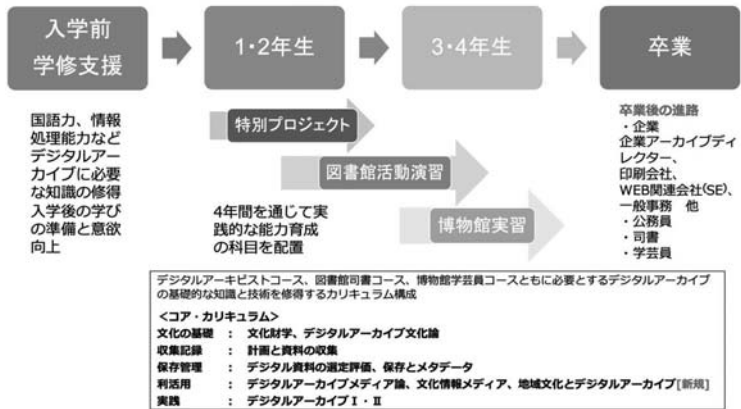
デジタルアーカイブ専攻では、文化を創造・発信する能力を持ち、知識集約型社会に貢献できる専門職を育成します。学びの道筋を明確に示し、コア・カリキュラムとそれを構成する科目を計画的に配置して、4年間でデジタルアーカイブに関する幅広い知識・技術を

修得し、それらを活用して知的財産(著作)権やプライバシー保護などの倫理に留意し文化を創造・発信できる能力を身につけ、活用できる人材を育成します。

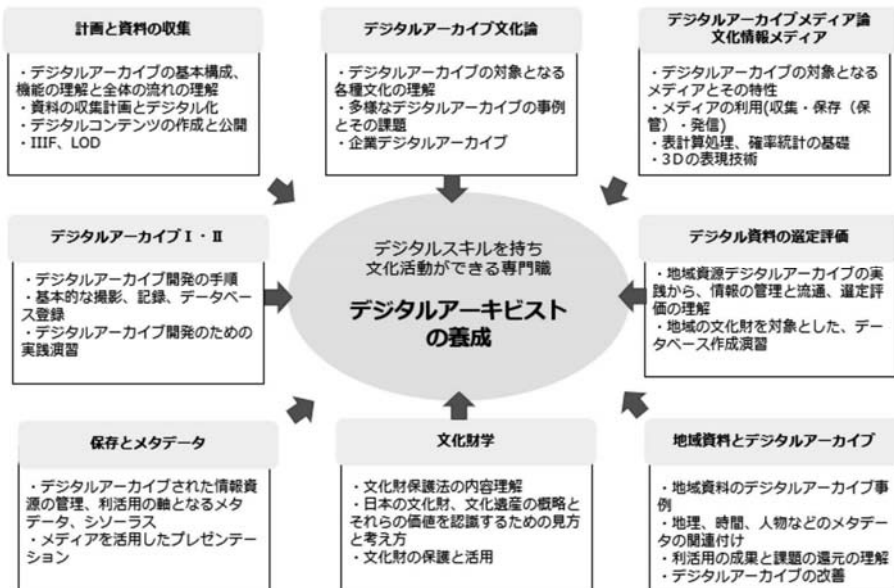
デジタルアーカイブ専攻では、フィ

ールド実習も重要視しており、地域の活性化や電子書籍作成などの実践を通じて、学修成果の深化を図っています。また、岐阜女子大学ドローンカレッジで資格を取得した学生が、職場でドローンの利活用の担当になっており、より将来に活かせる力とするため、在学中に資格取得をした学生には、大学のイベントや講習会で、一般の参加者への説明をする機会を創出しています。今年度よりメタバース構築の取り組みをはじめ、大学附属図書館の他、下呂市のメタバース作成などに取り組んでいます。

学びの道筋



コア・カリキュラムとそれを構成する科目



特色ある活動・研究活動・研究の社会還元

地元岐阜市を紹介する「岐阜で1日楽しもう」 Webページの制作、公開活動（継続活動）

デジタルアーカイブ専攻では、岐阜市との連携により、岐阜市内の有形・無形の文化遺産のデジタルアーカイブを行い、これまで、岐阜城、長良川河畔等の記録、蓄積がある。

「岐阜で1日楽しもう」は、デジタルアーキビストの学びの実践的授業“特別プロジェクト”で取り組んでいる。女子学生目線での岐阜市の魅力を紹介するWebページの制作を行っている。

Webページ作成を通して、

- 取材の立案・計画
- 取材交渉
- 撮影技術
- データ管理
- Web作成技術

を身に付けており、学生の実践的能力の向上とともに、岐阜市の広報媒体等にも利用されるなど地域貢献にも役立っている。



(2) 学部の改編

データサイエンスは活用されるシーンが多く、人材が必要とされています。文部科学省は「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」をスタートし、データサイエンスの知識を学ぶことのできる大学も増えてきています。文化創造学部は、デジタルアーカイブ専攻を有し、従来よりデジタルアーキビストの養成やテレビ会議システムを用いた授業等を積極的に進めてきました。これらに加えて、岐阜女子大学では、「メタバースに学びを」

文化創造学部の改編

データサイエンス

岐阜女子大学

メタバースプロジェクト

岐阜女子大学

ドローンカレッジ

全学共通科目

自己表現Ⅲ-ドローン-

自己探求Ⅲ-メタバース・
データサイエンス-



をテーマに、授業と連携して、観光 DX、教育 DXなどを学ぶ「岐阜女子大学メタバースプロジェクト」を実施しています。プロジェクトを通して、企画、立案、製作、運営、評価、改善する力などをつけ、社会貢献ができる学生を育成しています。2022年度は、3年計画の第1期にあたり、メタバースに岐阜女子大学と下呂市の街並みを造りました。

岐阜女子大学メタバースプロジェクトは、情報や3Dモデリングなどの授業での学びを統合し、学生が主体となって、メタバースを活用して社会貢献をめざすプロジェクトです。学生は、企画チーム、製作チーム、検証チームに分かれてプロジェクトに参加しています。プロジェクトの中核を成すのがメタバースクラブです。企画段階から学生が参加して、メタバースに岐阜女子大学や下呂市の街並みなどを製作して、本学が保管する地域資料などを提供したり、小中高校生が学ぶ場を提供したり、先進的に観光DXを進める下呂市の取り組みを学んだりしました。企画段階からプロジェクトに参画することで、学生自らが目標を設定し、各チームの役割を決め、タスクを設定し、スケジュールを設定し、プロジェクトマネジメントを徹底して、プロジェクトチームの連携を図りながらプロジェクトを進めました。

また、岐阜女子大学ドローンカレッジで資格を取得した学生が、社会で活躍しています。ドローンの資格取得と連携した科目も用意しています。授業に加えて、メタバースクラブやドローンクラブが発足し、学生が企画の段階から主体的にプロジェクトを推進して、体験を通してメタバースやドローンの活用方法を学んでいます。このように、メタバースやドローンについて学べる科目などを準備し、多くの科目との連携を図ることで、総合的にデータサイエンスを学ぶことができます。

メタバースに学びの世界を

地域資料教育利用DX推進事業で製作するメタバースのイメージ

特色

企画の段階から学生が参加

<p>コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく学べる 学びが広がる 一人一人の課題が解決できる <p>岐阜女子大学メタバース企画チーム 2年(17名)・3年(7名)・4年(3名) 大学職生(1名)</p>	<p>岐阜女子大学</p>  <p>メタバース入口</p>	<p>下呂市</p>  <p>メタバース入口</p>	<p>種別</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しい 明るい わかりやすい <p>対象</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中高等学校児童生徒 大学生 <p>岐阜女子大学メタバース制作チーム 1年(7名)・2年(20名)・3年(11名) 4年(3名)・大学職生(1名)</p> <p>効果測定</p> <p>岐阜女子大学メタバース検証チーム 3年(5名)・4年(3名)・大学職生(1名)</p>
<p>岐阜女子大学図書館</p>  <ul style="list-style-type: none"> 地理資料 教材 動画 資料 オーラルヒストリー など 	<p>仮想世界（メタバース）に岐阜女子大学の建物（本館、1～11号館、図書館、体育館、看護記念館等）を建設する</p> 	<p>仮想世界（メタバース）に下呂遺跡の建物（市役所、ホテル、旅館、商店等）を建設する</p> 	<p>下呂遺跡</p>  <ul style="list-style-type: none"> 下呂遺跡の観光DX 観光マーケティング 下呂未来創造プロジェクト 下呂市のDX化 モニター（動画、静止画、テキスト） 資料欄 図説 掲示板 下呂遺跡よりパレットより リンク など 地理資料 観光DX資料 など
<p>研究室</p>  <ul style="list-style-type: none"> 地理資料 教材 動画 図説 オーラルヒストリー など 	<p>遠隔協働学習教室</p>  <p>全国の学生が遠隔協働学習を支援しています</p> <ul style="list-style-type: none"> モニター 黒板 資料欄 図説 社会科新聞掲示板 など 	<p>講義室、実験室、講習室、実習室、資料室</p>  <ul style="list-style-type: none"> モニター 出題作品展示 地図、グラフ、表 黒板 資料欄 実習欄 実験台、調理台 など 	<p>下呂遺跡</p> 

岐阜女子大学メタバース企画チーム・制作チーム共同制作イラスト・写真を含む

体験を通して学ぶ

4. 外部評価委員会議事要録

日 時 :

令和5年2月4日(土) 13時30分から15時00分

場 所 :

岐阜グランドホテル 本館2階 孔雀の間

参加者

(1) 外部評価委員 (50音順)

- ・小関雅司氏 (静岡県立静岡高等学校校長)
- ・白石 淳氏 (清水建設株式会社名古屋支店副支店長)
- ・徳山日出男氏 (一般財団法人国土技術研究センター理事長)
- ・水川和彦氏 (岐阜市教育委員会教育長)

(2) 学内関係者

杉山理事長、松川学長、富士家政学部長兼学生部長、横山文化創造学部長兼文化創造学専攻主任、久世遠隔教育通信部長、藤木生活科学専攻主任、大崎住居学専攻主任、藤田健康栄養学科長、森初等教育学専攻主任、山口事務局長、倉坪事務局次長、谷学長補佐、笠井学長補佐、中島学長補佐

司会・進行

学長補佐(谷、笠井)が司会・進行。委員会に先立ち外部評価委員の紹介を行った。

1 開会のあいさつ

◎ 松川学長から、昨年度の外部評価委員会以降の本学の三つの取り組みと課題について概況説明があり、是非忌憚のないご意見をお願いしたいとのあいさつがあった。

①本学を構成する家政学部、文化創造学部はそれぞれ管理栄養士合格率90%を堅持、書道教育では日展入選者を複数輩出するなど堅実に成果をあげているが、これらの成果が入試出願者の増加に結びついていないのが現状である。

②特に、初等教育学専攻は社会で教員不足が言われている中で、保育士、幼稚園教諭、小学校教員など志願者は全く増えていない。むしろ減少している。

③本学の強みとしての遠隔教育やデジタルアーカイブを洗練していきたいと考えている。アーカイブなど保存のイメージから脱却するため、「ドローン」「メタバース」をキーワードに新しい取り組みを開始している。ドローンについては本学園に「岐阜女子大学ドローンカレッジ」を開設し、人材養成できる大学を目指している。メタバースについては岐阜県の補助金を得て学生自ら体得できる環境を創造している。

◎ 杉山理事長から、今後の教育として以下の二つの点が重要と考えているとの説明があり、この方向性について是非とも忌憚のないご意見をお願いしたいとのあいさつがあった。

①全国栄養士養成施設の学生募集の状況から、今後も東京集中は避けられない。岐阜県も多くの高校生が東京に意識がいつている。東京の大学は管理栄養士についていえばその資格だけを取らせることに専念している。地方の大学として生き残るためには、「管理栄養士は資格の一つ」として「複数資格」の有用性を高校生に説明し理解を得る必要がある。

②大学教育の最大の課題は「躰」だと考えている。家庭から、小学校、中学校、高等学校で行われてこなかった全人教育を、常識人としてトレーニングして社会に送り出す。そのために、資格取得のための「専門教育」と並行して「人間教育」を行っていきたいと考えている。

2 大学の教育課程について

◎ 富士学生部長から、①岐阜女子大学の教育課程の構成概念、②年間活動の概要について報告・説明があった。

①岐阜女子大学の教育課程の構成概念

・入り口から出口までの体制について、入学前学習支援、コア・カリキュラムを念頭にした初年次教育から専門教育へのプロセス、各種テキスト類の作成、見直し、活用の状況。

②年間活動の概要

・大学機関別認証評価について、経緯と結果、「改善を要する点」への対応状況について。定員確保と充足率の改善が大きな課題であること。

- ・11月6日に開催した沖縄本土復帰50周年記念講演・シンポジウムについて、木田宏先生の教育資料からの展望として、「これからの教育について」の基調講演を浅田先生が、「今後の教育について」の特別講演と本学の新たな取り組みの紹介を後藤顧問がされたこと。また、沖縄の戦後教育の状況及び沖縄女子短期大学と本学の連携についてシンポジウムが実施されたこと。
- ・地域連携・貢献活動について説明。

3 文化創造学部の改編について

- ◎ 横山文化創造学部長から、デジタルアーカイブを基盤にしたDX・メタバースへの発展について、ドローンとメタバースの現在の状況について作成映像を基に説明があった。

特にDX・メタバースについては、下呂市との包括協定を締結し、メタバース「岐阜女子大学」、「下呂市」、「下呂市温泉街」の構築に着手していること。また、来年度の観光DXへの取り組み方針等について説明があった。

学びの道筋については、デジタルアーカイブ専攻を中心に来年度からこれらの特徴を関連するカリキュラムに反映させ、初等教育学専攻、書道専修、観光専修の教育の魅力を高めていくこととしていること。また、家政学部を含めて全学的に展開するとの説明があった。

4 外部評価委員の講評

主な内容は次のとおりであった。

- ◎ 徳山日出男（一般財団法人国土技術研究センター理事長）

- ・18歳人口が減る厳しい時代を生き残るため、リスクを回避できない時代にあっては、きちんと覚悟を決めて取り組まねばならない。DXのように刻々と変わるツールは、日々技術革新が進んでいるので新しい価値を創ることが重要となる。その意味でも理事長の決意と学長の今後の方向は大変結構だ。
- ・方針は、教育上の視点と経営上の視点の両方から決めていただきたい。本当に成果を上げる実態の面と、その成果の伝え方・見え方やイメージという両方が必要である。
- ・実態の面では、今までやってきたことに磨きをかけ、きちんとした全人教育もや

りつつ、地に足がついた実践的なスキルを身につけさせて、社会に送り出していきたい。情報発信では知名度、イメージ、ブランディングを意識した工夫も必要であり、そのバランスが重要である。

- ・例えば、観光はこれから伸びる分野。英語教育の充実、DXに配慮した教育も方向性として正しい。
- ・デジタル関係は、ぐずぐずしていると追いつき追い越されてしまう。その点で挑戦的戦略としてドローンは実践の世界で成功して取り組むべき分野である。メタバースというのはこの先どうなるのか分からない技術であり、直ちに役立つスキルではない（学生の時代に馴染んでおく、先取りのスキルである）ことを認識・区別して取り組む必要がある。イメージやブランドのバランスが重要であるということ。つまり、実践としての社会人の資格分野とプラスアルファの分野のバランス感を外さないように進めることが大切である。

◎小関雅司氏（静岡県立静岡高等学校校長）

- ・静岡県内の大学でもコロナ禍以降、対話を基にした協働的な学びの機会が激減し人間関係の希薄化や学生の孤立化が進み、コミュニケーション能力やレジリエンスの低下傾向が見受けられるとのこと。この点は、躰・人間力との関係があるのかもしれない。
- ・岐阜女子大学は「学生ファースト」の姿勢で、本当に面倒見の良い、学生の個々の力を伸ばして社会に送り出してくれる大学と実感している。自信を持って継続されたい。
- ・昨年3つのポリシーに盛り込まれた「課題の見出しと解決」については、それぞれの分野で着実に取り組まれ、PDCAも着実に回っている。
- ・各学科専攻が作成する資料の平仄は統一された方が良い。目標として数値化できるものについては記載した方が良い。
- ・生活科学専攻では、「縫う」という強みに加え学習指導要領の観点から視点を変えて「生活文化の継承・創造の重要性を学ばせる」ためSDGsを意識した「環境に配慮した衣服」、「衣服の再利用(活用・補修)」といった視点からの学びもあるのではないか。
- ・他の教科との関連で、授業デザイン力（この単元のどの部分が、どの教科の、ど

の学びにつながってくるのか。)を教育すれば、実生活と連携する興味関心を持たせることができる授業となるのではないか。

- ・家庭科教員を目指す学生には、地域と連携する力、情報活用能力を育てていただきたい。
- ・初等教育学専攻の学生には、教員を生涯続けていく上で必要な素養（人間性・使命感・責任感・教育的愛情・子どもが好きであること）について、実習・体験を通して自ら確認することができる機会を充実し指導されたい。
- ・岐阜女子大学として先進的に取り組んできたデジタルアーカイブについては可能性の追求を、取り組みを開始したメタバースについては制作過程を通じて修得した学生の気づきや学びについて、高校生に対しても展開することは大切である。是非、高校生が見てあっと驚くような作品を作り、学生が自信を持つこと、学生をとおしたPRで高校との良い関係を築かれたい。

◎白石 淳氏（清水建設株式会社名古屋支店副支店長）

- ・ゼネコンの事業は、多様な専門性を持つ人材が集まり、協力して一つの仕事を成し遂げる必要があるため、相手の立場になって物事を考えて良好な関係を構築することができるコミュニケーション力が一番重要である。こうした人間力、コミュニケーション力を持つ若者が日本を牽引する相応しい人材と考えており、是非とも自分の発想を発表・説明できる人材を養成されたい。
- ・ドローンの活用例と国家資格になることでの需要を紹介する。
 - ①ドローンの映像機能を活用した広大な敷地の施工管理（現地の進捗状況）
 - ②ドローンのデータ機能を活用した施工管理（掘削する土量の計算）
 - ③ドローンのデータ機能を活用した施工管理（点群データによる4次元管理）
 - ④ドローンによる物質輸送
- ・ドローン教育を通してプロフェッショナルの養成が必要になる。

◎水川和彦氏（岐阜市教育委員会教育長）

- ・資料によれば岐阜女子大学は素晴らしい実績・成果をあげられている。しかし、学生確保に結びついていないのであれば、新しい大学の在り方を模索する必要があると思う。

- ・ 高校生の多様なニーズに対応できる大学であることが重要と思う。
- ・ 高校生の数は減少している。一方で通信制の高校を希望する数は増加している。
- ・ 岐阜女子大学が多様な学生に対応するのであれば、その教育内容や対応が高校生や中学生に見えるかたちになると良い。
- ・ 学生は大学に何を求めるのか。学生は、①学ぶ目的(魅力が見える)、②キャンパスライフの充実(人とのつながり、課外活動)、③高い就職率と生涯使える資格とっており、岐阜女子大学の資料・状況から「学ぶ目的(魅力が見える)」を受験生にもっと見えるようにすべき。
- ・ 例えば、「うちに来れば、こういうことが勉強できます。」ではなく、アドミッションポリシーみたいなものを表にされて「あなたの、あなたらしさを伸ばす教育を展開するのが岐阜女子大学です。」という発想も必要ではないか。
- ・ 教育は、自分らしく社会で生きる力を磨くもので、上書きされる知識ではなく、知恵や好奇心、探究心を磨いていくことにあり、そういうカリキュラムが満載されていることが重要である。教員養成系の学生でいえば、学校現場と常にリンクしているような4年間がすごく大事だと思う。
- ・ 小学校の教材で『スイミー』という魚が力を合わせて大きな魚をやっつけるみたいなストーリーがありますが、先日、市内の公立幼稚園で岐阜女子大学の学生さんが、iPadを使って子どもが自分で描いた魚を動くようにアニメーションにして、みんなでその魚をやっつけることをやってくれた。その時、お母さん方も幼稚園の年長の子どもたちもすごく喜んだのです。教育の今の現場で求めているすごく大事なものを現場に足を入れながら学んだということで、こうしたカリキュラム編成は魅力になると思います。
- ・ 生活科学の卒業生は、「専門性が高くすごいんだよ」ということよりも、教壇に立つ先生が豊かな生活(衣・食・住)とは何なのかということ、子どもたちにもじませてやるような先生になっていただきたい。高い専門性とは技術ではなく、生き方がすごく豊かであることであってほしいと思っています。
- ・ 住居学は、メタバース・DXを活用できる能力が魅力になる。
- ・ コロナ禍にあっては、「命」「健康」について食を通して考えていく力を、子どもたちにも、地域住民にも、お年寄りにも広げていく稀有なチャンスと考えている。健康栄養学科では、そういう力をつけることが魅力になるのでは。

- ・初等教育は、デジタルを活用し教室の景色を変え、授業のスタイルも変えてほしい。このために、是非ドローンとか、ICTの持っているノウハウを学んでほしい。
- ・書道専修は、DXで小学校の書写で毛筆で上手に書ける方法、導入期のやり方といった動画があれば喜んで活用させていただく。
- ・観光専修は、例えば白川郷と五箇山を題材としたメタバースの構築をとおして、自治体の観光戦略の違いを学び・研究して下呂市の観光戦略をプロデュースすることができればすごい。
- ・デジタルアーカイブ専攻にはドローンとメタバースの関係は今後必須だと思っている。卒業後の資格としてすごく良い。学校をメタバースで作っている子どもたちの居場所は好評で、そういう時代になっている。
- ・卒業された学生さんが、企業や学校で時代の求めている新しい仕事や教育の在り方に貢献されることを期待しています。
- ・時代の流れで、授業は全部インターネットでとかなっている。学生のキャンパスの在り方とカリキュラムの在り方をもっと面白くできるのではないのかなと思っています。

◎徳山日出男（一般財団法人国土技術研究センター理事長）

- ・委員の皆さんの共通意見は、岐阜女子大学がずっとおやりになってきた実践的な、そして、面倒見のいい教育を行い、真面目なきちんとした子を育てており、就職もある程度の成績を残されている。
- ・こういう今までの方向は、変える必要もないし、磨きをかけていくべきである。そして、その状況がうまくアピールできているか、伝わっているのかを検証する。
- ・しかし、どんどん時代が変わっていくので、さらに磨きをかけたり、新しいプラスアルファをつくることを工夫していくことが重要である。
- ・「躰」の問題ですが、今、企業は新入社員を腫れものに触るように扱っている。多くの企業で「叱るな」、「あまり追い込むな」の指導となっている。新入社員の中には物足りないと思っている人も多くいて、もっとしごいてほしいという意見も聞くが、毎年なかなかそうでもない子もいる。
- ・外国人の経営者の中では、「最近の日本の若者をあまり採用したくない。基本的な

礼儀ができていない。」という話もある。時間を守るとか、名刺をきちんと渡すとか、あいさつをするといった基本的なことができない。また、スマホは使えるが Excel が使えないなど。是非、岐阜女子大学では今までの方向性の上に、礼儀があり、教育的に指導に応えていこうという、前向きな人を育てていただきたい。

5 閉会のあいさつ

- ◎ 司会から、謝辞と皆様からいただいた講評を基に、大学教育研究にとって厳しい時代を建学の精神に沿って発展できるよう全教職員で取り組んでいきたいとのあいさつがあった。

以上

5. 3 ポリシー

(令和4年度)

大学	家政学部	文化創造学部 文化創造学科
<p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>岐阜女子大学は、建学の精神「人らしく、女らしく、あなたらしく、あなたならではの」の下、広く豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人材を育成する。そのため、大学が定める学力及び能力・人間力を身につけ、卒業要件を満たして所定の期間在籍した者に、卒業を認定し、学位を授与する。</p>	<p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>家政学部は、建学の精神に基づき、広く豊かな教養と家政学に関する高い専門知識や技術を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人間力を育成するため、以下の3つを教育目標とする。この目標を踏まえて編成した本学部の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「女子ならではの」の深い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身につける。 2 家政学の専門知識と専門技術を修得し、地域社会で有用な資格が取れる力を身につける。 3 地域社会の幅広い分野で活躍できるように、自律性と協調性、倫理観、コミュニケーション能力などについて、豊かな人間力を身につける。 	<p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>文化創造学部は、建学の精神に基づき、広く豊かな教養と初等教育・文化事業に関する高い専門知識や技能を身につけ、課題の見出しと解決に取り組む主体性を持って地域社会で活動できる人材を育成するため、以下の3つを教育目標とする。この教育目標を踏まえて編成した教育課程を修め、卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「女子ならではの」の深い教養を育み、生涯にわたって学び続ける力、主体性を持って地域社会で活動できる力を身につける。 2 初等教育・文化に関する高い専門的知識と技能を修得し、社会的に認められる資格を取得できる力を身につける。 3 相手の立場を思いやる心、たゆまず努力する姿勢、多様な価値観を認める寛容な精神など、地域社会で幅広く活躍できる人間力を身につける。
<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>岐阜女子大学は、豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人間力の育成をめざして、多様な授業形態を組合せた教育課程を体系的に編成し、それを実践・評価する。</p>	<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>家政学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。</p>	<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>文化創造学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。</p>
<p>1 教育課程の編成</p> <p>(1) 教養教育では、大学での学びと将来に向けての学びに主体的に取り組む自律性を育むため、学修の基礎となる全学共通教育科目を配置する。</p> <p>(2) 専門教育では、高い専門性を身につけるため、主要科目と関連する履修科目の到達目標を明確にして体系的に配置する。</p> <p>(3) 学識の実践力を高め、課題の見出しと解決に取り組むため、実習・演習科目を効果的に配置する。</p>	<p>1 教育課程の編成</p> <p>(1) 教養教育では、全学共通で自己確立（自己探求、自己表現、自己創造）をめざす基盤教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。</p> <p>(2) 専門教育では、学修の基礎となる共通科目と高度な専門科目を体系的に配置し、国家資格等の取得をめざした教育課程を編成する。</p> <p>(3) 実践的能力を重視して、課題の見出しと解決に取り組むため、講義に関する演習・実習科目を多く配置する。</p> <p>(4) 論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と卒業論文の作成を必修とする。</p>	<p>1 教育課程の編成</p> <p>(1) 教養教育では、全学共通で自己確立（自己探求、自己表現、自己創造）をめざす基礎教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。</p> <p>(2) 専門教育では、学部での専門的な学修の基礎となる共通科目と各専攻が定める主要科目と関連科目を、学修内容・学修目標を明確にして配置する。</p> <p>(3) 演習科目、学外実習科目等を配置し、課題の見出しと解決に取り組む学生の実践力の育成を図る。</p> <p>(4) 論理的な思考力と実践力を身につけるため、卒業研究と卒業論文の作成を必修とする。</p>

<p>2 教育内容・方法 (1) 教育目標・教育課程に応じた効果的な教育を推進する。</p>	<p>2 教育内容・方法 (1) 家政学部では、健康栄養学、生活科学、住居学の基礎と専門について、家政学的視点から実践的に教育する。</p>	<p>2 教育内容・方法 (1) 文化創造学部では、文化創造学、初等教育学、デジタルアーカイブを実践的に教育する。</p>
<p>(2) 基礎・専門教育課程では、カリキュラムマップを編成し、学生の主体的な受講と学修を推進する。</p>	<p>(2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。</p>	<p>(2) 各専攻で、学士力育成のためのカリキュラムマップ、専門基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。</p>
<p>(3) 学修の効果を高めるため、主体的、協働的、課題の見出し・解決型の実践的学修を取入れる。</p>	<p>(3) 実践科目では、就業力を育成するため、学生参加型授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）等を実施し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。</p>	<p>(3) 学生参加型授業、問題解決型学習（PBL）等を実施し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。</p>
<p>(4) 本学教育の総仕上げとして、卒業研究を必修とする。</p>	<p>(4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。</p>	<p>(4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。</p>
<p>3 学修成果の評価 (1) 2年終了時には、進学課程に必要な単位の修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得を評価する。 (2) 学修状況を調査し、学修の状態と学修の方法を把握して指導と評価に活用する。 (3) 卒業研究と関連学修について総合的な学びを評価し、卒業の適否を判断する。</p>	<p>3 学修成果の評価 (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。 (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。 (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。</p>	<p>3 学修成果の評価 (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。 (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。 (3) 卒業研究の評価は論文発表と口頭発表で行い、その結果と全履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。</p>
<p>入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー） 岐阜女子大学は、建学の精神と教育の目標を理解し、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性のある多様な人間力の研鑽に意欲的な人を選抜する。 また、高い専門性を身につけ、課題の見出しと解決に取組み地域社会での活躍をめざす人の入学を期待する。</p>	<p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） 家政学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、学修に意欲があり、課題の見出しと解決に取組み卒業後に地域社会での活動をめざしている人の入学を期待する。</p>	<p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） 文化創造学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次のような女学生の入学を期待する。 1 大学での学修に必要な基礎学力を有している人。 2 知的好奇心にあふれ、向学心のある人。 3 他者の考えを理解し、自分で考えて判断し、自己の意見を表現できる社会的能力を磨きたい人。 4 卒業後は、地域社会での活躍をめざす人。</p>

【大学院】

生活科学研究科	文化創造学研究科
<p>修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 生活科学研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と創造性豊かな研究能力や総合的課題処理能力を身に付け、生活や健康の質の向上を追究・提案・実践できる次のような人材の育成を目標とする。この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、修了要件を満たした者に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 衣食住などの人間生活、あるいは食べ物と健康との関係について幅広い知識を修得し、人間生活の向上や改善、食生活を通じた健康の増進や疾病の予防に寄与できる高度な専門性を身に付ける。 地域社会で主体的な貢献や活動を行うために、自律性、協調性、対話力、倫理観などの人間力を身に付ける。 家庭科教員を目指す場合には、教材の研究及び開発を行う力、児童や生徒の教育を実践的に展開し、その分析・評価・改善ができる力を身につける。 	<p>修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 文化創造学研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と技能を身につけ、主体性を持って文化の伝承と創造に貢献し、次世代を育てる実践的な教育研究活動ができる人材の育成を教育目標とする。この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、必要な修了要件を満たした者に学位を授与する。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 生活科学研究科は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、衣食住を中心とする人間生活の質の向上を図る生活科学分野と食べ物と健康との関わりを探究する応用栄養学分野について、「健康・安全」、「快適・利便」、「ゆとり・豊かさ」、「自己表現」などの視点から、以下のカリキュラムを体系的に編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育課程の編成 <ol style="list-style-type: none"> 生活科学研究科は、生活科学分野と応用栄養学分野で構成し、両者に共通する授業内容を研究科の必修科目として配置する。 生活科学分野は、高度な家庭科教材の開発や実践的な食育などの教育・研究科目を配置する。 応用栄養学分野は、管理栄養学の高度な知識と実践力を養成する教育・研究科目を配置する。 研究能力の育成のため、修士論文特別研究を配置する。 教育内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> 生活学研究科は、生活科学分野と応用栄養学分野を実践的に学修する。 生活科学分野は、高度な専門知識を修めた家庭科教員（高等学校・中学校）の養成を図る。 応用科学分野は、EBN（evidence-based-nursing：実証に基づく看護ケア）に関する栄養研究に力を入れて、管理栄養士・栄養教諭専修免許が取得できる力を養成する。 入学時点で学生の指導教員を決め、実験・実習等に付随する諸問題に対して個別に細やかな研究指導を行う。 社会人教育を実施するため、土曜日・日曜日に集中講義を開講する。 	<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 文化創造学研究科は、文化創造学と初等教育学の二つの専攻において、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、多様化する現代の諸課題に対応できる実践力と専門分野における高度な研究力の修得を目指して、体系的なカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育課程の編成 <ol style="list-style-type: none"> 文化創造学専攻・デジタルアーカイブ専攻では、日本文化、英語文化（通信教育課程は除く）、文化創造の3つの分野に共通する授業科目と分野に応じて、それぞれ、書道・国語、英語（通信教育課程は除く）ならびにアーカイブに関する研究科目を配置する。 初等教育学専攻では、幼稚園児及び小学生の育成に関する実践的な教育・研究科目を配置する。 各専攻について、通信教育課程を編成する。 研究能力の育成のため、修士論文特別研究を配置する。 教育内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> 文化創造学研究科は、文化創造学と初等教育学を実践的に学修し、それぞれにおいて、高等学校教諭専修免許（国語・英語（通信教育課程は除く）・書道）・中学校教諭専修免許（国語・英語（通信教育課程は除く））および小学校教諭専修免許・幼稚園教諭専修免許の取得可能な能力を養成する。 文化創造学研究科は、情報社会が求める上級デジタル・アーキビストの養成を行う。 入学時点で学生の指導教員を決め、実験・実習等に付随する諸問題に対して個別に細やかな研究指導を行う。 通信教育課程の学生には、スクーリングを土曜日・日曜日・祝日等に実施する。

<p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は実技などの取り組み状況、学内外での研究報告・発表（口頭、論文）で行う。</p> <p>(2) 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表について複数教員で評価する。</p> <p>(3) 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。</p>	<p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は実技などの取り組み状況、学内外の研究報告・発表（口頭、論文）で行う。</p> <p>(2) 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表について複数教員で評価する。</p> <p>(3) 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。</p>
<p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>生活科学研究科は、岐阜女子大学の建学の精神と教育方針・目的を理解し、次のような素養と気構えのある学生の入学を期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を備えている人。 2 衣生活、住生活に関する諸問題の解決に意欲を持っている人、又は食べ物と健康との関係について関心を持っている人。 3 地域社会における衣食住に関する諸問題の解決に貢献する志のある人。 4 知的好奇心にあふれ、自主的な研究を行う意欲を持っている人。 	<p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>文化創造学研究科は、修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次のような学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を有する人。 2 他者の考えを理解し、自分で考え判断し、自己の意見を表現できる人。 3 知的好奇心にあふれ、主体性を持って多様な人々と協働して研究に打ち込める人。 4 文化の伝承と創造、次世代の育成など、地域社会の発展に向けて行動できる人。 <p>文化創造学研究科通信教育課程は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、上記に加え、次のような学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 働きながら学ぶ意欲のある人。

(2022. 3. 30 改定)

生活科学専攻

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生活科学専攻は、家政学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 衣・食・住に関する知識や技能を活用し、課題の見出しと解決に取組み、豊かな生活を工夫し地域社会で主体的に展開できる力を身につける。
- 2 家族に関する知識や技能を活用し、円滑な対人関係を築き、人と適切に接する総合的人間力を身につける。
- 3 消費生活・環境に関する知識や技術を活用し、生活上の多様な課題に対処できる自律性と協調性・倫理観を身につける。
- 4 洋裁・和裁の縫う知識・技能を備え、家庭科教員としての確かな実習指導ができる力を身につける。
- 5 これらの資質・能力を多面的に活用し、家庭科教育を通じて社会へ貢献することができる力を身につける。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生活科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。

1 教育課程の編成

- (1) 教養教育では、自己確立をめざす基盤教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。
- (2) 専門教育では、学修の基礎となる共通科目と高度な専門科目を体系的に配置し、家庭科教員資格取得をめざした教育課程を編成する。
- (3) 洋裁・和裁の技術向上のために、被服実習科目を多く配置する。
- (4) 論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と学士論文の作成を必修とする。

2 教育内容・方法

- (1) 日常の生活課題を科学的に分析し、課題の見出しと解決に取組み、豊かな生活を創造するために実践科目を重視する。

- (2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門基礎テキスト、資格取得ガイドマップ等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。
- (3) 実践科目では、被服実習・調理実習といった実習面に強い・実践的指導力の高い家庭科教員を養成するため、実習授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）、模擬授業等を実践する。創造的に考え、多様な人々取り組み、主体的に生活の問題解決をはかる人材を育成する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、製作物、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

生活科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、学修に意欲があり、課題の見出しと解決に取組み卒業後に地域社会での活躍をめざしている人の入学を期待する。

住居学専攻

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

住居学専攻は、家政学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 生活者側の視点に立ち、住む人、使う人が満足できる建築・インテリアの高い専門的知識・技術を育み、課題の見出しと解決に取り組み、地域社会で活躍できる力を身につける。
- 2 建築・インテリアに関する幅広い知識・技術を修得し、地域社会で有用な資格が取れる力を身につける。
- 3 地域社会で活躍できるように、建築・インテリアのデザインに必要なコミュニケーション力と社会人として求められる教養や人間性を身につける。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

住居学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、学部共通科目、専門科目、発展的科目、卒業研究、実践的教育を体系的に編成して開講する。

1 教育課程の編成

- (1) 初年次（専門基礎）教育では、専門科目の履修に必要な基礎学力を補完するための科目と建築・インテリアをデザインするための基礎科目を配置する。
- (2) 専門教育では、建築スペースデザインコース、インテリア・プロダクトデザインコースの2つを設け、より実践的な課題に対応できる知識・技術を修得する科目を配置し、併せて社会で求められる国家資格等の取得を目指した教育課程を編成する。
- (3) 実践的能力を重視して、専門教育科目のコアとなる設計・作図演習、ICTの活用、プロジェクト実習等を初年次より配置する。
- (4) 課題設定・解決力、企画・計画力、プレゼンテーション力等を身につけるために、卒業研究を必須とする。

2 教育内容・方法

- (1) 実践力を身につけるために、実際の建物等を企画・設計・施工する実習や地域の課題解決型の実習等の実践的教育をおこなう。

- (2)各学修分野について、カリキュラムマップ、専門基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。
- (3)実践科目では、就業力を育成するため、実習を通して課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な深い学びを支援する。
- (4)各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言をおこなう。

3 学修成果の評価

- (1)学生の学修成果は、課題作品、レポート、テスト、出席率等で評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2)2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3)卒業研究と全履修科目の学修成果について評価し、卒業の適否を判断する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

住居学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、住む人、使う人の立場に立ち、環境への配慮や安全かつ快適な建築・インテリアをデザインするための知識・技術を実践的に身につけ、建築・インテリアのスペシャリストとして、課題の見出しと解決に取り組み、地域社会での活動を目指している人の入学を期待する。

健康栄養学科

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康栄養学科は、家政学部の「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を受け、次の能力を有することを重視し編成した本学科の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 管理栄養士として、地域社会で主体的に活動できる力を身につける。
- 2 健康と栄養の専門知識と技術を修得し、管理栄養士を始め地域社会で有用な資格を取ることができる力を身につける。
- 3 地域社会の幅広い分野で活躍できるように、自律性と協調性、倫理観、コミュニケーション能力などを修得し、豊かな人間力を身につける。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

健康栄養学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、専門基礎科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。

1 教育課程の編成

- (1)管理栄養士として、地域の栄養と食に関する課題を抽出するための基礎科目を配置する。
- (2)管理栄養士として、地域の栄養と食に関する課題を客観的に分析するための科学的思考力を養う専門科目を体系的に配置し、国家資格等の取得をめざした教育課程を編成する。
- (3)科学的根拠に基づいた実践的能力を重視して、課題の見出しと解決に取組むため、講義に関する演習・実習科目を多く配置する。
- (4)論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と卒業論文の作成を必修とする。

2 教育内容・方法

- (1)健康栄養学科では、栄養学の基礎と専門について、実践的に教育する。
- (2)各学修分野について、カリキュラムマップ、専門基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の資料や教材を提供し、主体的な自己学修を奨励するとともに、適切な情報の収集・選択をする技能を修得する。

- (3) 実践科目では、就業力を育成するため、学生参加型授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）等を実施する。
- (4) 学修環境を整備し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。
- (5) 各学年各クラスにアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率や学修目標の達成度などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

◆ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

健康栄養学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、食べ物と健康に関心を持ち、学修に意欲があり、卒業後に課題の見出しと解決に取り組む地域社会での活躍をめざす人の入学を期待する。

初等教育学専攻

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

初等教育学専攻は、文化創造学部卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 幼児期から児童期にかけての教育に対して、見通しをもった課題を見出し、解決に導く教育実践の力を身につけている。
- 2 教育人として人間性・社会性に優れ、教育への情熱を有している。
- 3 理論と実践との往還により、自己向上に励み社会に貢献できる力を身につけている。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

初等教育学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、0歳から12歳までの子どもの心身の成長発達を理解し、ICT活用指導力を供えもち、教育の課題を見出し、その解決に取り組む保育士・教員を養成する。その方策として、理論と実践の往還を図り、専門性と人間性を高める以下のカリキュラムを編成している。

1 教育課程の編成

- (1) 初等教育学専攻のカリキュラムは、子ども発達専修と学校教育専修で編成されている。それぞれ「幼児期の保育・教育」と「小学校の教育」を系統的に学ぶことができる。
- (2) 二つの専修のカリキュラムは、相互に関連する科目を履修し、周辺領域を学ぶことができる。
- (3) 本学のもつICT活用に関わる教育資財を活かし、活用していく能力・技能を身につけることができる。
- (4) 保育、教育に関する理論学修と実践活動を重ねながら自らの子ども観、保育観・教育観を高め、保育者、教育者としての資質と教育の課題の解決にもつながる実践力を身につけることができる。
- (5) 集団学習等とおして、仲間と保育・教育の本質を追究し、互いに高め合う力を育み、コミュニケーション能力などの社会性を育むことができる。

2 教育内容・方法

- (1) 学修においては、理論を活用して思考力、判断力、表現力を育む主体的な学修を行う。
- (2) 1年次から4年次にかけての段階的な保育・教育現場等での体験活動や教育ボランティア

ア活動をとおして、教師力を高める。

- (3) 保育・教育環境の高度化、多様化に対応して、理論を活用して保育・教育に生かす思考力や表現力などの基盤的な学力や情報機器を活用する能力、課題解決能力を習得させる。
- (4) 実践力を高め、地域社会と結びつく子ども向けの活動をカリキュラムに位置づけ、積極的に社会参画ができ、優しさと強さと賢さを兼ね備えた保育者・教員となる取り組みを行う。
- (5) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 保育所実習、教育実習への参加には、必要な学修成果と進路への意欲を評価し判断する。
- (4) 卒業研究の評価は論文発表と口頭発表で行い、その結果と全履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。
- (5) 専門の領域に加えて周辺領域を学ぶ学修の成果は、複数の免許状・資格の取得状況で判断する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

初等教育学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解した次のような人を求める。

- 1 子どもとの関わりが好きで、幼児期の子どもの成長発達に深く関わりたいと考える人
- 2 教師への憧れを強くもち、児童を教育していくことに熱情を持っている人
- 3 仲間と力を出し合って共に成長していく仕事がしたいと思っている人
- 4 教育に関心があり、教育の課題の解決に取り組みたいと思っている人

文化創造学専攻 書道専修

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 教育者として「書写・書道」を総括的に理解・修得するとともに、練度の高い技能で多様な作品づくりができ、その文化を継承し発展させることができる。
- 2 岐阜女子大学の建学の精神・教育方針を理解し、書道を通してボランティア活動・国際交流に努め、学修の成果を活かし社会に貢献できる。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、小・中学校の「書写」、高等学校の「芸術科書道」の教員を育成すること、および高度な専門性を以って、書道文化を継承し社会に貢献する人材を輩出することをめざし、以下のカリキュラムを編成している。

1 教育課程の編成

- (1) 基礎・基本を大切に「基本点画」から学び、その後の臨書学習へと展開する。また書道概論・書道史・書論等の科目で「理論面」を補強し、実践的指導力を身につけるため「書写教育」・「書道科教育法」等を開設する。
- (2) 高等学校の「芸術科書道」では授業内容の9割が「臨書」であるため、各学年に「千字臨書」を課し「臨書力」が身につくように、各書体の講義を開設する。
- (3) 芸術としての「書道」の可能性も追求し、現代の書道を創造していくことができるよう「創作」の講義を開設する。
- (4) 書写検定試験の対策講座を時間割内で、教員採用試験・漢字検定試験の対策講座を授業時間外に実施する。

2 教育内容・方法

- (1) 基礎・基本を徹底させるため、実技科目では合格制を取り入れて多くの課題を出し、理論科目では小テストを設定して、学修効果を高める。
- (2) 放課後および休祭日の作品制作だけではなく、夏期休暇には2泊3日の錬成会を実施し、行事への企画力・協調性ととも制作時の集中力を養う。

- (3) 学内での「大作展」・「半切展」の表装では、学生同士の相互支援の中で進める協働学習を通してコミュニケーション能力を養うと共に技術の伝授を図る。
- (4) 毎年の国内研修旅行・隔年の中国研修旅行を実施し、見聞を広め書道関係の知識を深める。
- (5) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (2) 卒業研究では、論文に加え卒論発表会でのプレゼンテーション能力も含めて総合的に評価する。
- (3) 卒業制作では3分野以上の幅広い作品制作ができ、しかも鍛錬度の高さを「創造性」を観点に評価する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、書道文化およびその継承・発展に深い関心を持ち、書写・書道教育の専門性を高め教育者になろうとすると共に社会に貢献しようとする人を求める。

文化創造学専攻 観光専修

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文化創造学専攻観光専修は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 世界に通用するホスピタリティスキルを身につけた人格形成をする。
- 2 英語に関する高度な専門性とコミュニケーション能力を備えた教員を育成する。
- 3 在留外国人の雇用に必要な専門知識を身につけ、幅広い分野で活躍できる人材を育成する。
- 4 見通しをもって課題を見出し、自ら解決へと導くことのできる実践力をつける。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文化創造学専攻観光専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、特に、観光という視点と英語教育という視点から、専門科目、選択科目、資格取得に関する以下のカリキュラムを編成している。

1 教育課程の編成

- (1) 専門教育では、専門科目、選択科目、資格取得に関する科目の学修内容・学修目標を明確にして配置する。
- (2) 学外実習科目を系統的に配置し、観光業または英語教育に関わる学生の実践力および課題解決能力の育成を図る。

2 教育内容の方法

- (1) ホテルマネジメントと旅行業務に精通した観光スペシャリストの育成及び外国人雇用に関する学修を通して、地方公務員や一般企業など幅広い分野で活躍できる人材を育成するカリキュラムを編成している。
- (2) 国際社会で通用するグローバルな視野を持った英語教員の育成するカリキュラムを編成している。
- (3) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、通常授業の評価に加えて、実習時の成果、長期休暇中の課題の成果を総合的に考察して、学生の学修指導を行う。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文化創造学専攻観光専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、日本や世界の文化に興味を持ち、観光に関する専門的な知識を深め、また、英語のコミュニケーション能力を向上させ、観光産業や教育の世界で活躍したいという人材を求める。

- 1 国内外の旅行が好きで、その案内や企画を作ってみたいと希望する人
- 2 ホスピタリティスキルを身につけ、ホテルビジネスをはじめとする観光関連産業に将来携わりたい人
- 3 国際協力や国際支援に興味・関心があり、日本でグローバルな仕事に関わりたい人
- 4 専門性と英語によるコミュニケーション能力を備えた英語科教育を希望する人
- 5 観光、国際関係に興味があり、刻々と変わるこれらの業界の課題解決に取り組みたいと考えている人

デジタルアーカイブ専攻

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 デジタルアーカイブに関する幅広い知識・技術を修得し、それらを活用して知的財産（著作）権やプライバシー保護などの倫理に留意し文化を創造・発信する能力を有している。
- 2 資料をデジタルアーカイブ化する専門的知識と技能を修得し、デジタル・アーキビスト、博物館学芸員、図書館司書の資格を取得できる力を身に付けている。
- 3 文化を創造・発信するために、課題の発見と解決に取組み、常に新しい知識・技術の修得に努める強い意志を有している。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、文化に関する知識を身につけた上で、それらをデジタル化して記録・保存・管理し、知的財産（著作）権やプライバシー保護などの倫理に留意し、文化を創造・発信する能力を持ち、知識集約型社会に貢献できる専門職を実践的に育むために、以下のカリキュラムを編成している。

1 教育課程の編成

- (1) デジタルアーカイブ能力の育成と、その能力を活かした企業、地方公共団体、図書館や博物館で活躍できる人材の育成を目指し、専門科目では、「文化の基礎分野」、「文化創造伝承分野」、「書誌アーカイブ分野」、「教材開発分野」の関連科目を、学修内容・学修目標を明確にして配置する。
- (2) 演習科目として、「特別プロジェクト」、「図書館活動演習」、「博物館実習（デジタルミュージアム実習）」を配置し、学生の実践力の育成を図る。
- (3) デジタルアーカイブに関する論理的な思考力と実践力を身につけるため、卒業論文の作成を必修とする。

2 教育内容・方法

- (1) デジタルアーカイブ専攻では、デジタルアーカイブに必要とされる収集、保存・管理、発信、評価の各プロセスについて実践的に教育する。
- (2) デジタルアーカイブの各プロセスに必要な知識、技能の修得のため、専門基礎テキスト、資格取得ガイド等の教材や資料を提供し、課題に主体的に取り組む姿勢と問題解決力を育成する。
- (3) 演習科目では、学生参加型授業、グループ学修、フィールドワークを取り入れ、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。自分にはない他者からの新しい視点を取り入れ、省察する視点を重視する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、デジタルアーカイブ作品、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究の評価は、論文作成と口頭発表で行い、その結果と履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、文化や歴史に関する知識・技術を実践的に身につけ、課題解決に取り組み、社会に貢献したいという意欲のある人を求める。

令和4年度 岐阜女子大学・大学院外部評価委員会報告書

発行日：令和5年3月

発行：岐阜女子大学

(岐阜県岐阜市太郎丸80番地)

印刷：有限会社 青山印刷